

後潟水土里ふれあいの旅2018

平成30年7月6日（金）に、水土里ネット青森北部と水土里ネット青森第二北部が、青森市立後潟小学校の4～5年生（14人）を対象に、野外学習「後潟水土里ふれあいの旅2018」を開催しました。この野外学習は平成16年度から毎年行われ、農業用水の水源地である山林から水田までの一連の水の流れを学習しながら、農業水利施設を見学し、施設の役割を理解してもらうとともに、施設付近に棲む生き物観察や水質調査を行い、地域の農業・農村環境について総合学習できる内容となっています。

最初に後潟小学校で出発式を行いました。出発式では校長先生から「後潟の豊かな自然を見つけてきてください」という宿題をいただきました。生徒のみなさんは元気に返事をし、バスに乗り込み最初の目的地に向かいました。



最初の目的地は山城ため池で、青森北部の工藤理事長からため池沿革の話や、当事務所職員による水の循環についての説明がありました。生徒のみなさんは熱心に話を聞いていました。

お話が終わった後は山城ため池の生き物観察や水質調査を行いました。

生き物観察では環境公共プロフェッショナルの工藤氏がたくさんの生き物を捕獲し、説明してくれました。生徒のみなさんは配布された図鑑と見比べながらじっくりと観察していました。水質調査では「水温・透明度・PH・COD」の4項目を測りました。みなさんで水質調査キットの色と比色表を見比べて数値を決めていました。



次に向かった先は後潟川頭首工です。頭首工について、青森北部の坂本事務局長から説明があり、その後生徒の代表が頭首工の操作を行いました。元気いっぱいハンドルを回し、ゲートの開閉を行いました。ほかの生徒はゲートが開閉する様子を見て「すごい」と驚いていました。ここでも生き物観察と水質調査を行いました。生き物観察では水路で見つけたモクズガニの他に、イワナやカエル等があり、生徒の皆さんは特にカニに興味津々の様子で触っていました。



頭首工での生き物観察を終えた後は、分水工へと向かい、施設の役割等の説明を受けました。説明の中で、分水工が出来る前は水をめぐる争いがあったと聞き、生徒のみなさんは水の重要性を再認識したようでした。

最後は小用水路に移動し、アヒルレースを行いました。アヒルレースは毎年大盛況となるイベントで、生徒のみなさんにとってはメインイベントのようです。それぞれがペイントを施したオモチャのアヒルと共に集合写真を撮りました。撮影が終わり、いよいよレースの開幕です。スタートの合図とともに用水路にアヒルを放し、900mの距離で順位を競いました。水路の中でも流れが様々あるようで、順位が何度も入れ替わり、手に汗握る熱戦となりました。生徒達は楽しそうにアヒルへエールを送っていました。



アヒルレース終了後は後潟小学校へ戻り、解散式を行いました。式の中では、代表の子が「水の大切さを知り、これから大切にしていきたいと思いました」と感想を述べました。校長先生や菊池理事長から「大きくなっても後潟の豊かな自然を忘れないでほしい」とお話がありました。

今日の学習会を通じて、改めて自分たちの住んでいる地域が豊かな自然に囲まれていることを実感したのではないのでしょうか。

